



## 令和3年度明るい選挙啓発ポスターコンクール講評



山形県審査(第2次審査)審査員 佐藤満

昨年度に引き続き、今年度も、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、多くの学校が対応に苦慮する状況でしたが、県内の小学校、中学校、高等学校から1,609点もの数多くの応募がありました。

応募作品には、小学校1年生から高校3年生までの、それぞれの年齢での表現のよさがあり、その時期だからこそ感じられることや考えられることを大切に表現しており、どの作品も「明るい選挙」という共通のテーマを基に、子供達の思いのこもった力作ぞろいでした。

ですから、審査に当たっては、どの学年の作品を選ぶ時も、大変苦労しました。それは、単に絵の上手さだけを見るのではなく、それぞれの発達の段階における、子供の表したいことが感じられるかどうかや、発想、構想力、独創性、表現する技能などを総合的に読み取るように、努力しました。

ポスターは、自分の思いや考えなどを、絵と言葉で見る人に伝えるものです。そして、良いポスターとは、

- 1.目的やテーマをしっかりと伝えてある事
- 2.主題を目立たせるなど、印象的に仕上がっている事

です。

具体的には、以下の4つの観点から審査を行いました。

- ①「明るい選挙」というテーマを、きちんと伝えているか。
- ②主題又は主役が堂々と目立っているか（例えば、投票する人の図柄や18歳というコピーなど）。つまり、主役が目立つような配色や構成、書体などの工夫がされてあるか。主役となるメインがしっかり伝わると、それだけ印象深いポスターになります。
- ③ポスターでは、明るく、爽やかに、誘いかけることが大切です。
- ④選挙啓発ですので、特定の政党名を連想するコピーは除外しました。

おわりに、今回のコンクールに応募した子供達は、「明るい選挙」というテーマから自分の身の回りや社会に目を向け、感じたことや考えたことなどから、創造的に発想や構想をし、試行錯誤しながら、それぞれの個性やよさを生かして表現しておりました。描くことを通して身に付けた資質や能力は、生涯にわたって生きて働く力となることと思います。

また、コロナ禍で、このような質の高い作品が多数応募されたこのコンクールが、長年にわたって続けられていることは、明るい選挙推進協議会関係者や多くの方々の多大なご努力と、選挙啓発の重要性を理解してご指導いただいた学校の先生方などの支援のお陰かと思えます。

本当にありがとうございました

